タスクシフトにおける当院の取り組みと問題点・課題

◎冨田 雄介[1)]、河合 陽子[1)]、今村 尚美[1)]、小木曽 美紀[1)]
医療法人 大医会 日進おりど病院[1)]

〔はじめに〕2022 年 4 月から医師の働き方改革で新制度が始まった．各医療機関でもタスクシフトのため，業務の見直しなどに取り組んでいるだろう．日進おりど病院は病床数 129 床，日進市の中核病院として診療を行っている．当臨床検査科はタスクシフトの一環として消化器内視鏡検査と腹部造影超音波検査の業務に従事している．今回は内視鏡検査での業務紹介と従事して感じた問題点と課題について提起したい．

〔現状〕当院の消化器内視鏡センターは医師 12 名，看護師 14 名，臨床検査技師 3 名で構成されており，約 7800 件/年の内視鏡検査を実施している．検査技師は内視鏡センター長の要請により，2021 年 10 月から内視鏡検査に従事している．主な業務はスコープの洗浄，管理，細菌培養，生検，ポリペクトミー等の処置，胃瘻造設・交換介助，患者受付および介助などである．

〔問題点と課題〕検査技師が内視鏡検査に従事することの問題点は，一部の業務しか法的に許可されておらず，円滑な業務遂行の支障となっている点である．内視鏡検査についてタスクシフトで言及されているのは，生検鉗子による検体採取のみでありポリペクトミー等の処置については明記されていない．また，検査を受けやすくするため鎮静剤・鎮痛剤を併用しており，そのため血管確保を行うが，タスクシフトでは採血に伴うことが前提として明記されている．今回，当院ではこれらについてどのように解釈し，対応しているかについても紹介したい．また課題としては，3 名の検査技師を午前と午後に分け，ローテーションで配置していることで，担当者の交代によって内視鏡検査室の状況の変化についていけないことや，習得する処置などの技術に差が生まれることである．

〔考察〕内視鏡業務に従事している検査技師は，法的には明確な記載がない処置について，各医療機関で解釈し対応しており，現場に即していない部分もある．今後，多くの検査技師がタスクシフトの業務に従事し問題点の提起と改善を進めることが重要であり，検査技師の業務範囲を広げていくことが，臨床に即したタスクシフトによる働き方改革につながると考える．連絡先 0561(73)7771